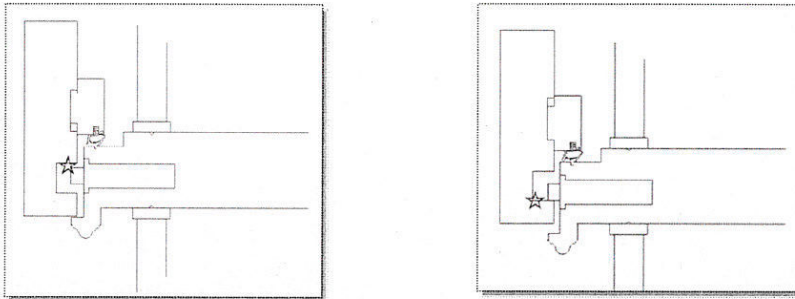


■鍵のかかりが悪い場合の調整方法

鍵のかかり不良の原因には下記のケース①②の2点が主に考えられます。それぞれのケースに応じた調整を施してください。

ケース①

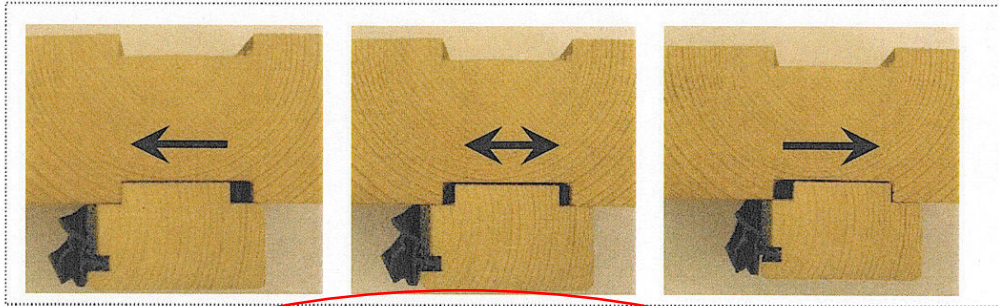
ドアの室内外の寄り位置に起因する鍵かかりの不良（☆印部分がひっかかる）



→ケース①の場合の調整方法

施錠した状態で3方戸当りを前後にスライドさせ、鍵のかかりが最も良い位置で固定してください。

スライド方法はカタログP6（3方戸当たりの光漏れ 調整方法）をご参照ください。

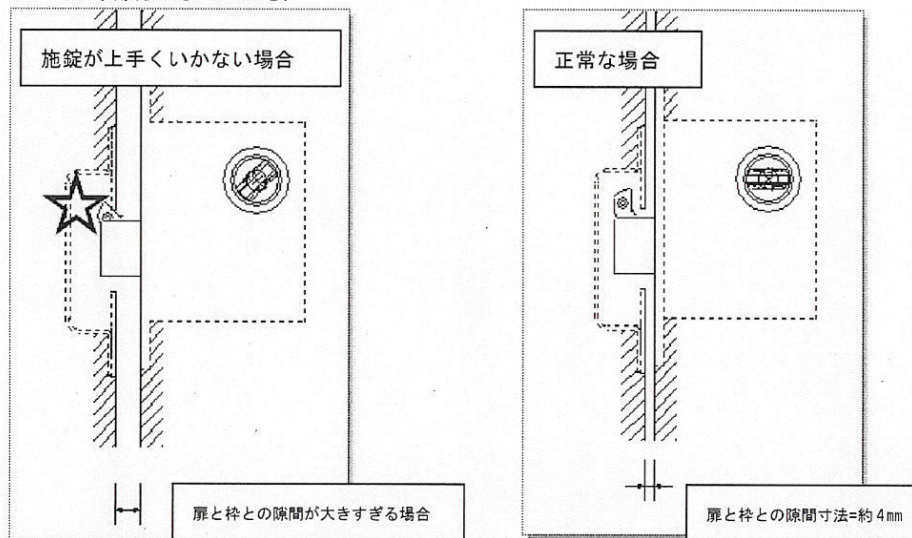


玄関ドアの鍵（下部）のかかりが悪い場合

ケース②

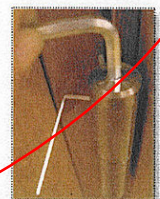
扉と枠との隙間寸法が大きすぎ、デッドボルトのカマ部分がひっかかるために、鍵が完全にかからない。

（☆印部分がひっかかる）



→ケース②の場合の調整方法

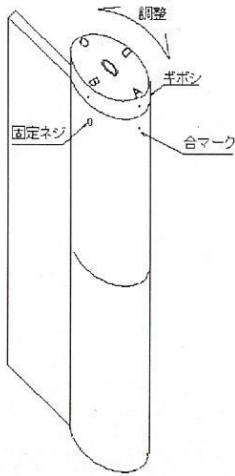
調整丁番を使用して 扉と枠との隙間寸法を小さくしてください。（丁番の調整方法はP7をご参照ください。）



丁番の調整方法

■丁番の調整方法

下記に基づき調整を行ってください。



上側丁番は、前後・左右・の2方向調整です。

下側丁番は前後・左右・上下の3方向調整です。

■STEP.1

固定ネジを緩めます。(2.5mm六角レンチ使用)

■STEP.2

ギボシ部分を回して調整します。(6mm六角レンチ使用)

上下調整は1回転1mmで2mmまで調整可能です。(下部羽根のみ)

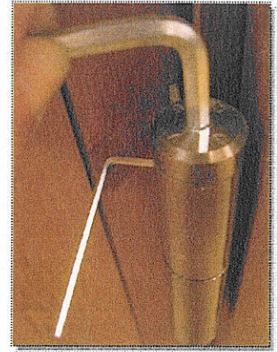
右左調整はBとDの位置で最大2mmまで調整できます。

前後調整はAとCまで4mmです。

※合マークの中間で止めるとより細部の調整ができます。

■STEP.3

調整後固定ネジをしっかり止めます。(⚠ 閉め忘れにご注意ください。)



状態に応じた調整を施してください。

上下の調整		右左の調整		★原因
ドアの上部が当たる	ドアの下部が当たる	ドアの開き側が当たる	ドアの開き側の隙間が大き過ぎる	
前後の調整				
枠が当たり、扉が閉じにくい		隙間が大き過ぎて鍵などがかかりにくい		